

柏原市国民健康保険事業特別会計赤字解消計画

1 基本方針

(1)目的

国民健康保険は国民皆保険制度を支えるナショナル・ミニマムであり本市においても、被保険者の健康保持・増進のため、適正な運営に努めているところである。

しかし、高齢化の進展や長引く不況により収入の減少する者又は職を失い国保へ加入する者等の増加により、被保険者の内、無職や低所得者の占める割合が増し、保険料収入は減少している。一方医療費は年々増加しているため厳しい財政状況が続いている。このため平成 20 年度より累積赤字解消にむけ、「収納率の向上」と「医療費の適正化」に取り組み、結果、平成 21 年度より単年度収支については黒字に転換することが出来たが、平成 23 年度末現在において累積赤字額は 8 億 2,408 万 5,539 円と特別会計の全支出額の 9.2%となっている。

このため、今後の本市国民健康保険財政の健全化に向けた指針として、当赤字解消計画を策定することとしたものである。

(2)取り組みの基本方針

国民健康保険の累積赤字の解消にむけた取り組みとして、保険料の適切な賦課、収納対策及び医療費の抑制策の一層の推進と一般会計からの適正な繰入れを中心に実施する。

(3)期間

この方針は、平成 24 年度から平成 29 年度までの期間の柏原市国民健康保険事業特別会計の財政運営を対象とする。

2 累積赤字の状況

本市においては、平成 8 年度から平成 20 年度まで 13 年連続で単年度収支が赤字となり、平成 12 年度よりは実質収支も赤字となり、5,454 万 8,054 円の累積赤字が発生した。以後平成 20 年度末までの累計で 11 億

8,289万3,795円であったものが、平成20年度より赤字解消のための計画を策定し取り組みを進めた結果、平成21年度より3年連続単年度収支を黒字とすることができ、平成23年度末時点の累積赤字額は8億2,408万5,539円と約3億6千万円減少した。

3 前年(H23実績)・現年(H24見込)の予算(当初・最終)及び決算の状況

別紙のとおり

4 過去年度の赤字の要因

平成8年度以降において、単年度収支が赤字となった主な要因は、

①被保険者の高齢化の進展や医療技術の進歩による医療費が高額化し、保険給付費が増加しているにもかかわらず、被保険者に対し急激な保険料の負担増を求めることが出来ず、その増加に見合う保険料を適正に賦課することが出来ていなかったため、歳出超過となり単年度収支が赤字となった。

②補助金の減少による。

③従前の赤字解消計画は赤字を一般会計からの繰入金のみにより解消する計画であったため。

④独自減免(条例減免)分に対する一般会計よりの繰入がなかった。
(平成20年度より繰入)

5 計画期間中の赤字解消額

平成24年度から平成29年度までの各年度1億4,000万円の赤字を解消するものとし、平成29年度末には累積赤字を全額解消する。

6 各年度の具体的な施策ごとの赤字解消額

(1)単年度収支均衡を図るために

①保険料（率）の見直しを毎年行い、医療給付に見合う必要な保険料を賦課する。

②医療費の中長期的な抑制（適正化）のための施策を推進する。

(2)累積赤字解消のための財源

平成 24 年度から平成 29 年度までの各年度の赤字解消目標は 1 億 4,000 万円とし、その内訳は以下のとおりとする。

①保険料賦課 (1 億 2,000 万円)

予算において医療費の 2%（約 1 億 2,000 万円）を予備費として計上し、保険料算定に組み入れる。

②収納率向上 (1,500 万円)

収納率に概ね 0.8%の収納率向上を目指す。

③一般会計からの繰入れ

一般会計からは適正な繰入を行う。

④医療費の適正化 (500 万円)

保健事業、レセプト点検強化、ジェネリック医薬品の普及促進等、医療費適正化のための施策を推進し支出削減に努める。

(単位:百万円)

年 度		H24	H25	H26	H27	H28	H29
前年度末累積赤字額		824	684	544	404	264	124
解 消 方 法	①保険料賦課	120	120	120	120	120	120
	②収納率向上	15	15	15	15	15	15
	③一般会計繰入						
	④医療費の適正化	5	5	5	5	5	5
単年度収支		140	140	140	140	140	140
赤字解消額累計		140	280	420	560	700	840
年度末累積赤字額		684	544	404	264	124	-16